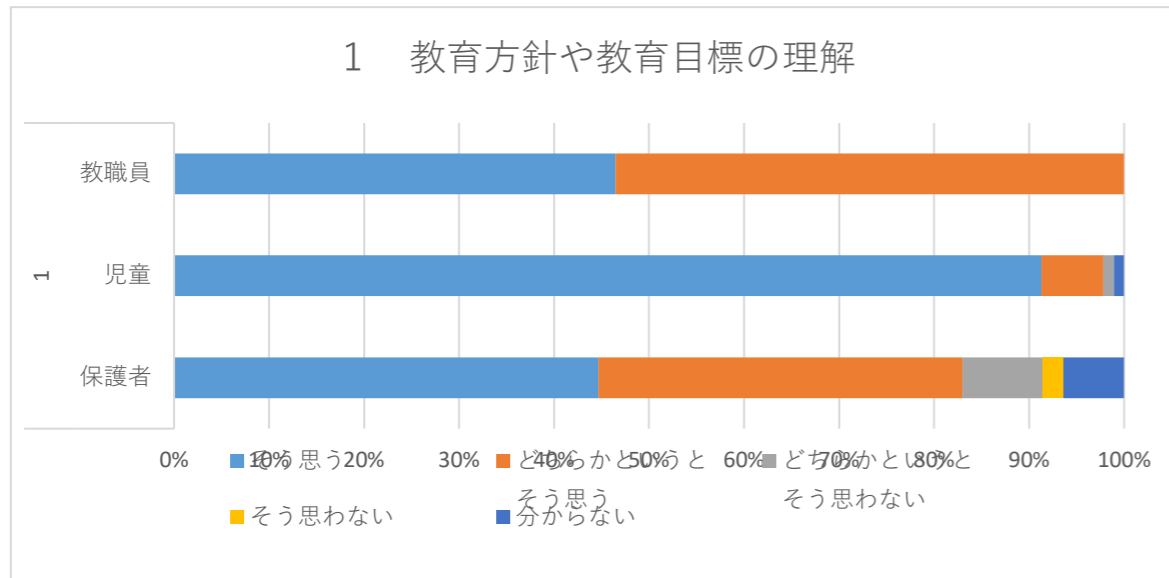
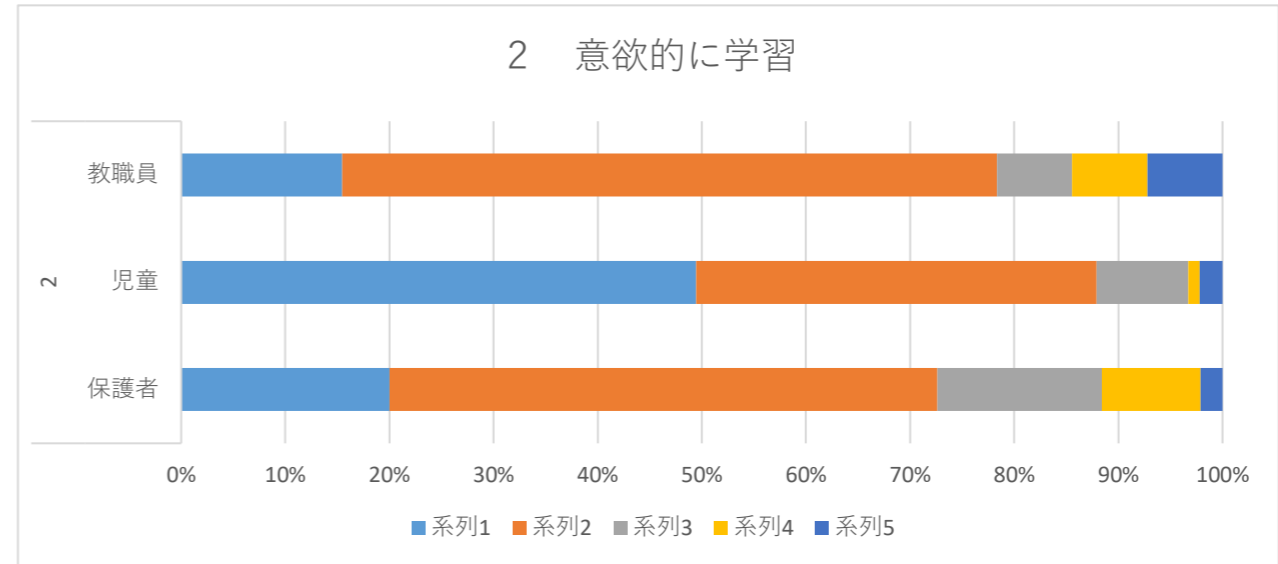


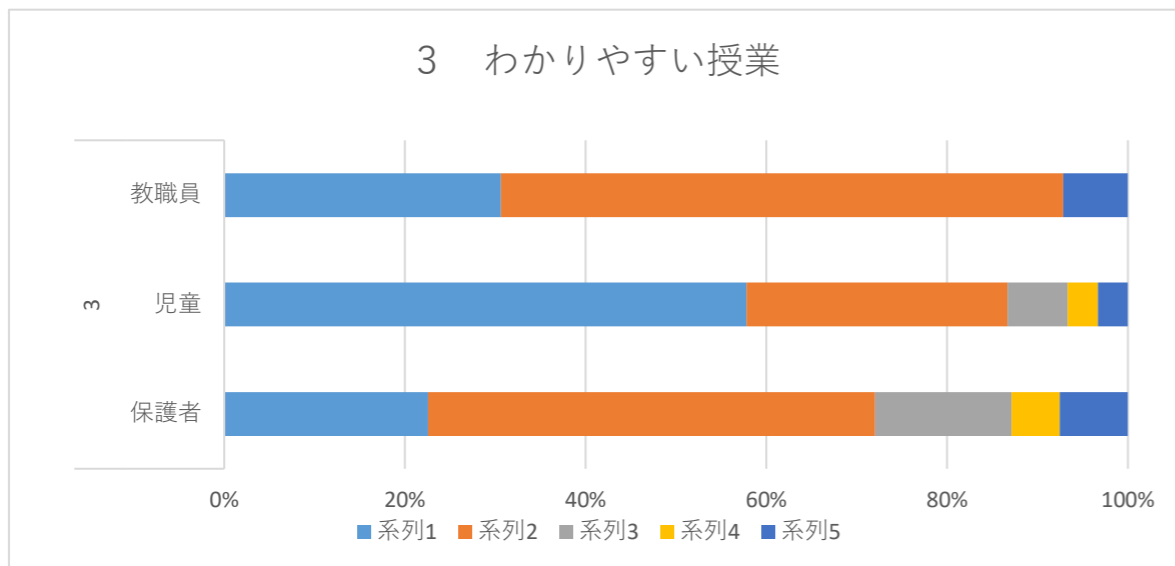
学校評価（保護者・児童・教職員）



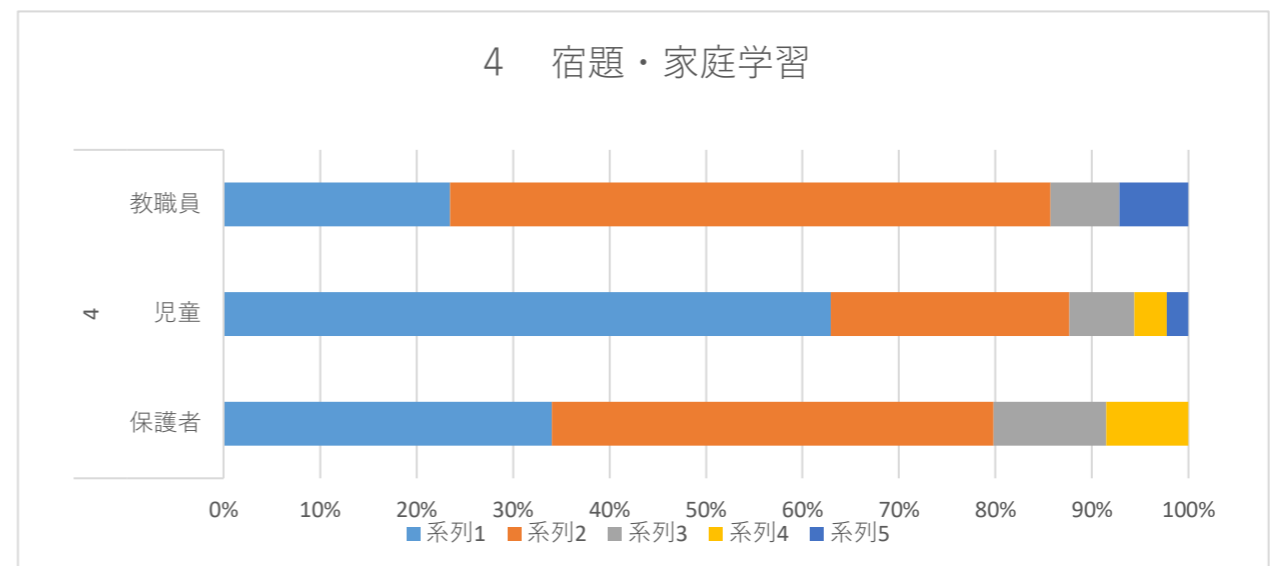
本年度は、学校教育目標の下7つの重点目標（レインボープラン）・しおあじを掲げ取り組み、学校だより、ホームページ、PTA総会等で説明をしてきた。保護者の肯定的評価が78%（29%UP）となった。また、児童の肯定的評価は90%であり、徐々にレインボープランやしおあじの周知が図られてきた。さらにわかりやすく、あらゆる機会に学校経営の方針を説明し、さらなる周知を図っていききたい。



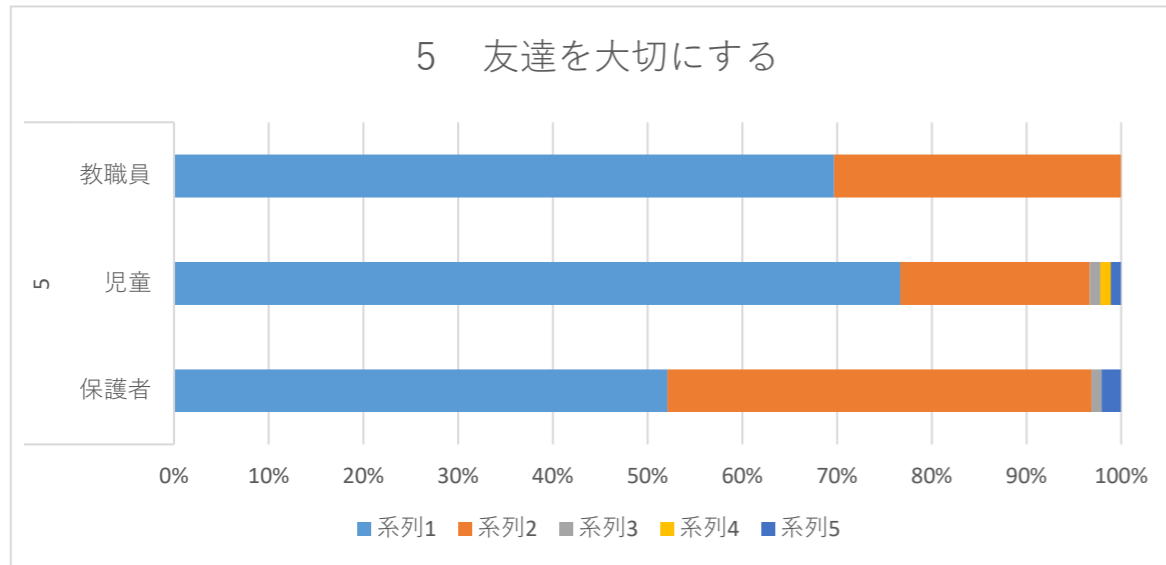
児童の意欲を高めるためには基礎基本の学力の定着が不可欠である。朝15分間のチャレンジタイムを設け、計算問題や漢字の書き取りに取り組んでいる。また、市のILMや漢字検定にも積極的に参加することで児童は意欲的になってきている。児童の肯定的評価80%だが、保護者は69%（7%UP）となっている。ICT機器の活用や体験的な学習（実験・具体物操作・地域学習等）を取り入れながら学習の意欲化を図っていききたい。



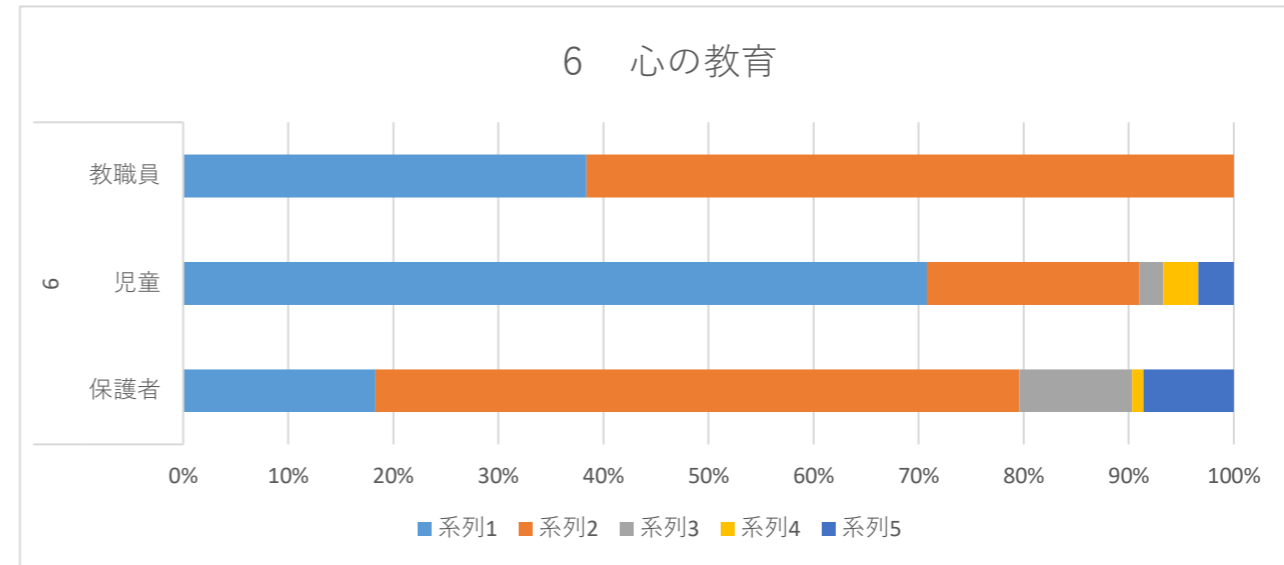
「わかった」「できた」と実感できる授業を目指してきた。ユニバーサルデザインの視点を生かし、各教科に取り組んできた。保護者の肯定的評価67%（7%UP）だが、児童は78%の評価。ICT機器の活用やスモールステップ化、体験的な活動を取り入れながらわかる授業に今後も取り組んでいきたい。



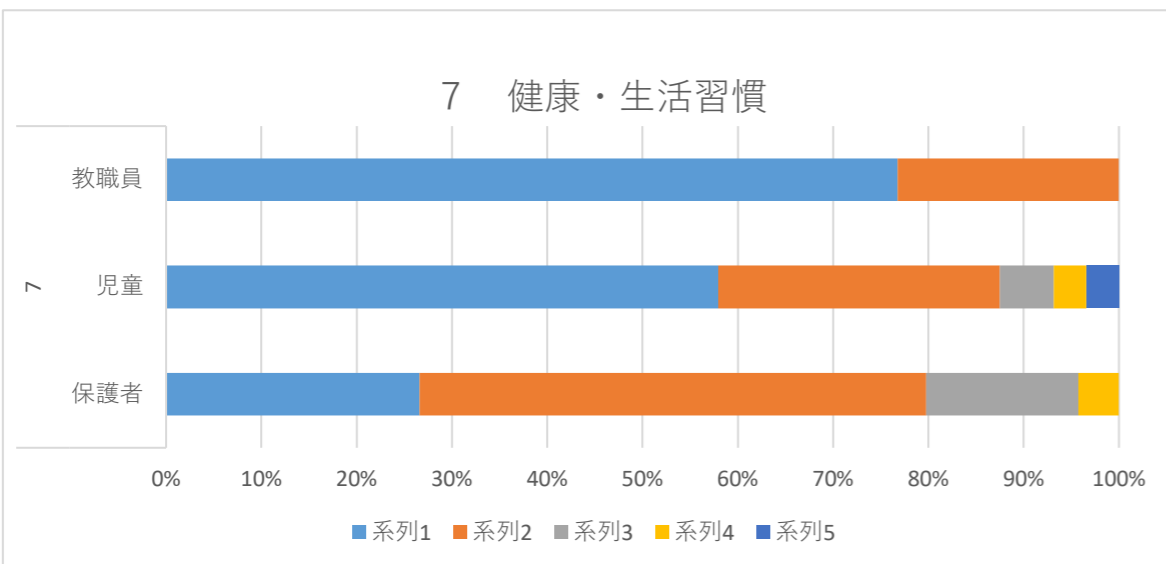
保護者の肯定的評価75%（前回同値）。宿題については、どの学年も計画的に出している。学年×10分間は机に向かうよう保護者会や学校だよりで呼びかけている。児童の肯定的評価が78%となっており、保護者の協力も得ながら少しずつ定着してきているものと思われるが、個人差が大きいところがある。



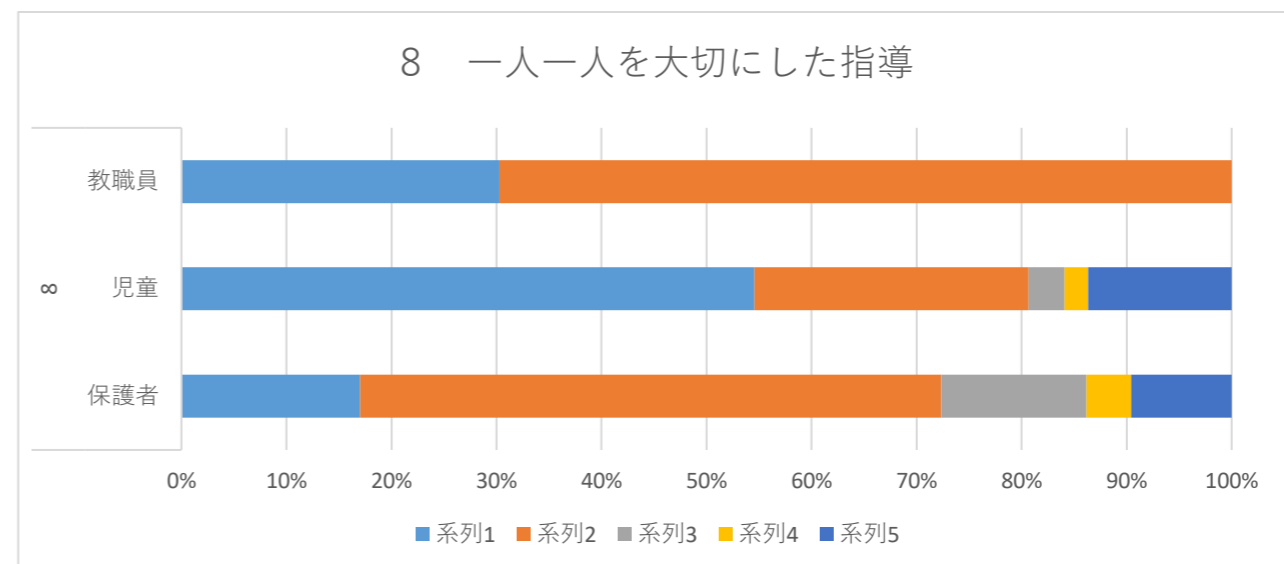
保護者の肯定的評価93%（5%UP）。児童の肯定的評価87%。しおあじの「思いやりのことば」をテーマに全校朝会で講話をしたり、人権作文や標語を作ったりすることで、友達を大切にする気持ちが徐々に高まってきている。いいねの木には、友達の良いところカードが満開になりつつある。



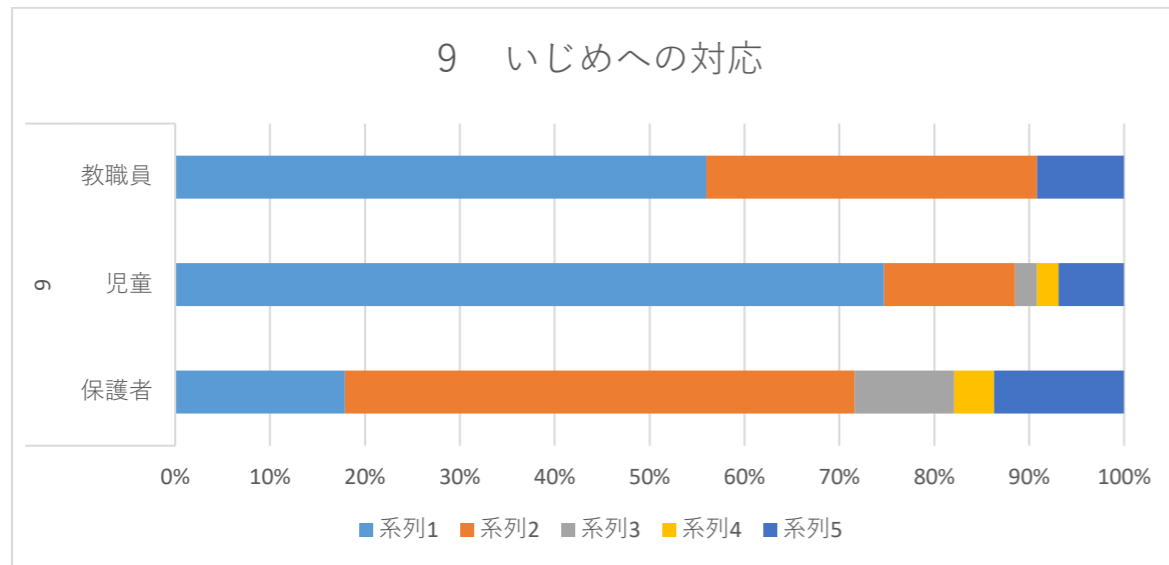
保護者の肯定的評価74%（6%UP）。読書通帳年間50冊を目標に取り組んできた。達成率は、80%で、100冊を超える読書名人は16名であった。みどり荘訪問、高齢者との交流、手話クラブ等の福祉体験。自然体験活動や地域学習等でも自然や人と触れ合いながら豊かな心を育成している。今年度から福祉活動の研究をしており、来年度以降も充実した活動を継続していく。



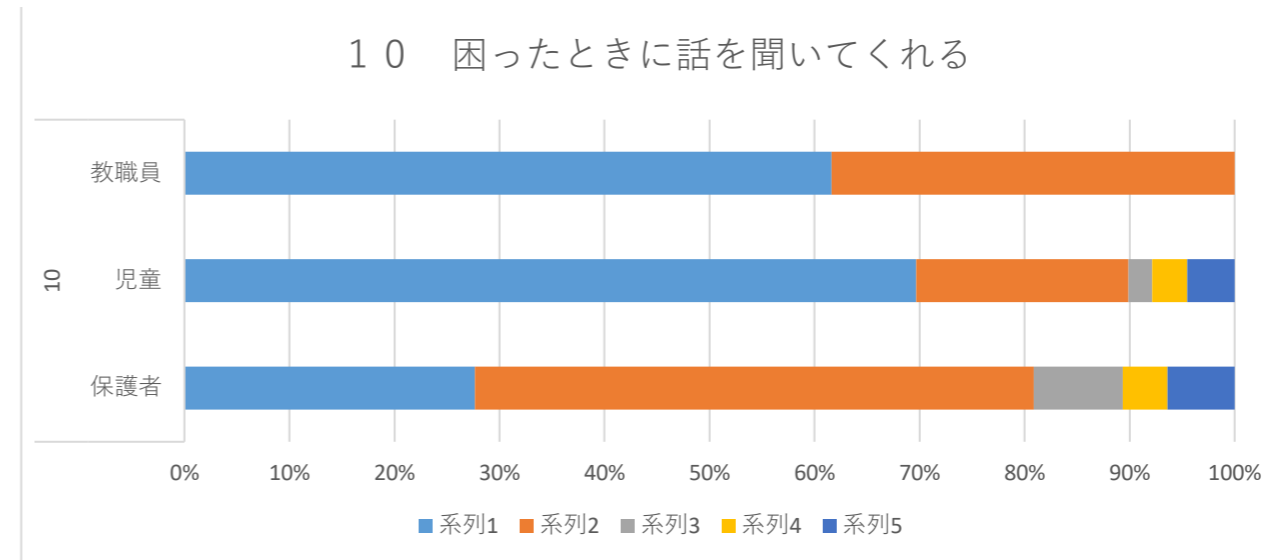
保護者の肯定的評価75%（3%UP）。ロードレース大会に向けての持久走練習、なわとび検定、もりもりタイムでは筋持久力を養っている。市栄養士を招いての食育教室、養護教諭による性教育、歯科検診を通してのブラッシング指導などを行っている。基本的な生活習慣が身につけていない児童もいるので家庭との連携を図っていききたい。



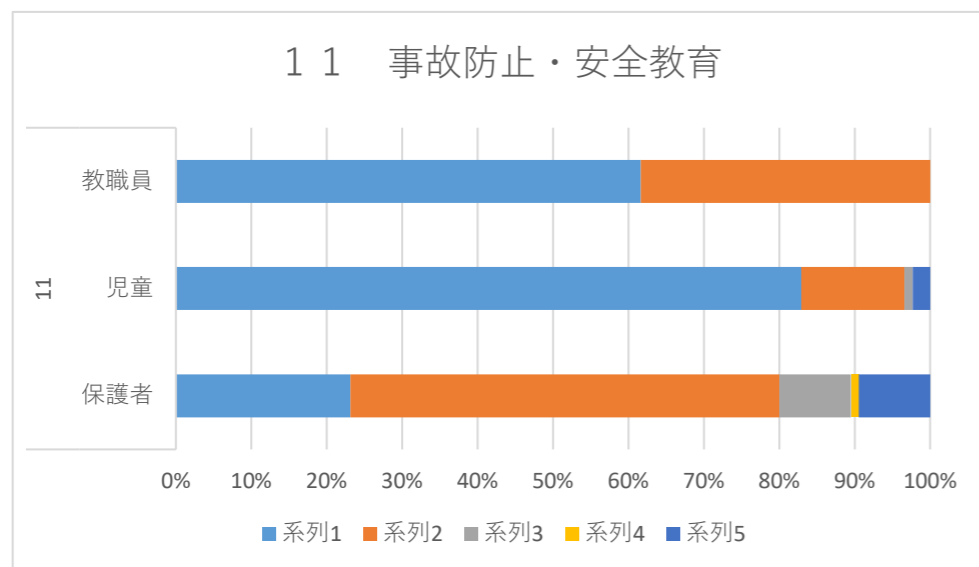
保護者の肯定的評価68%（10%UP）。1クラス当たりの児童数が35名を超える学級が多い。教職員も必要に応じて連絡帳や電話等で児童の様子を伝えており、保護者との連携を意識している。今後も児童の実態の共通理解を図るために家庭訪問、個別面談、学級懇談会等を実施し、個に応じた指導に努めていく。



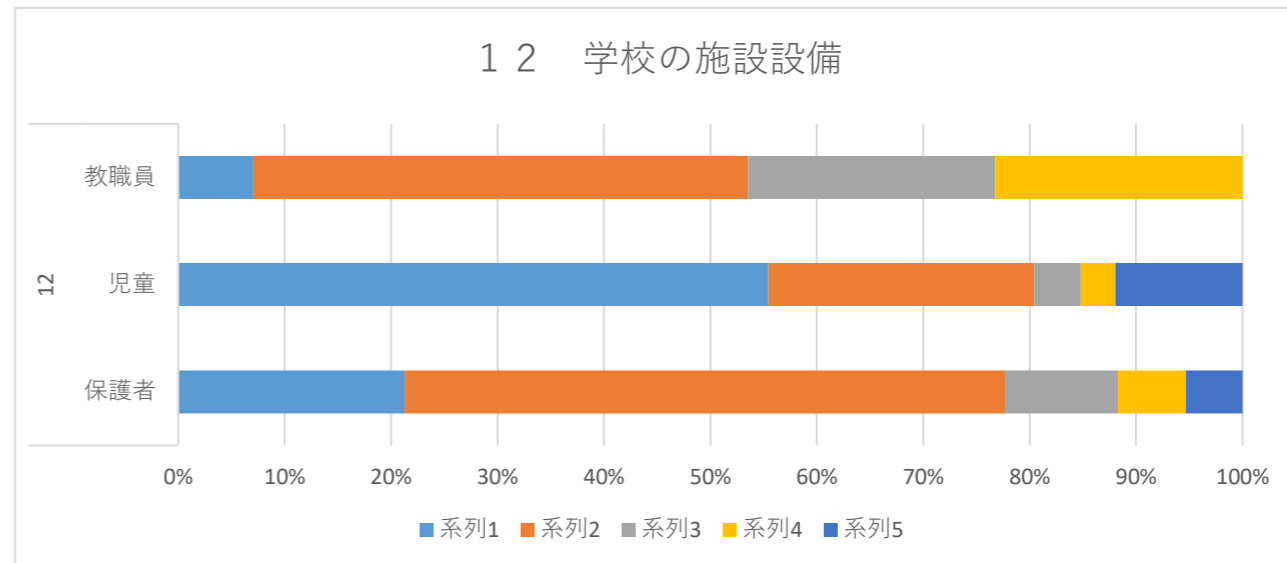
「あのね箱」やいじめアンケート調査を年6回実施したうえで、教育相談を実施し、いじめの早期発見・対応に努めている。保護者の肯定的評価68%（10%UP）。児童は82%で比較的対応してもらっていると感じている。今後も職員会議や生徒指導会議で情報の共有を図り、関係機関とも連携を図りながらいじめへの対応をしていきたい。



保護者の肯定的評価は76%（8%UP）、児童の肯定的評価は80%で比較的話を聞いてもらっていると感じている。友達とのトラブル等、学習や生活全般に渡って、学級担任は職員間で情報を共有しながら児童の対応に当たっている。

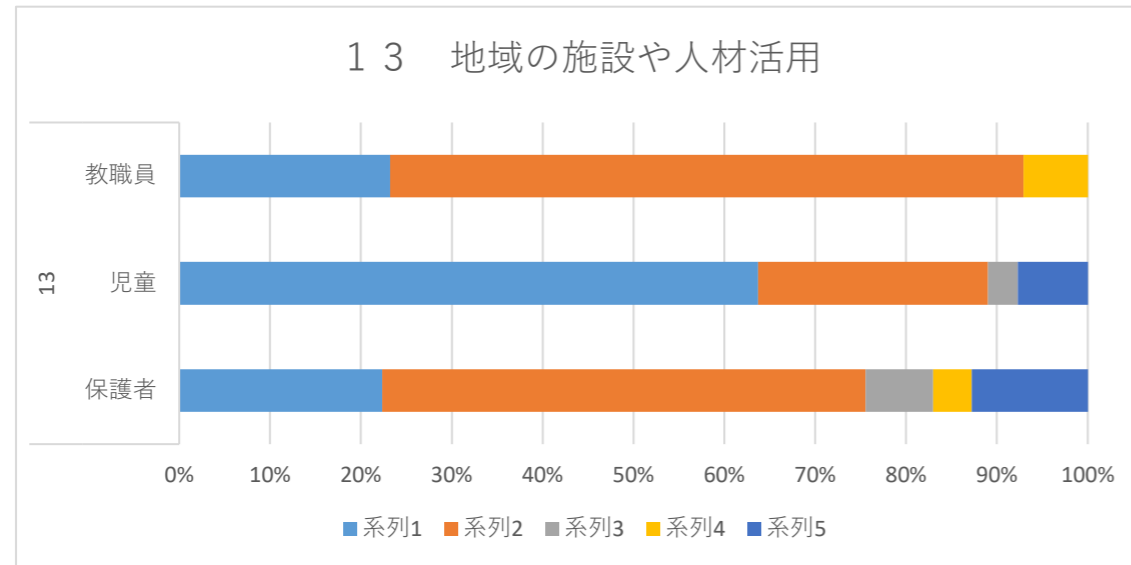


保護者の肯定的評価76%（前回同値）。児童の肯定的評価85%と安全に対する意識が高い。避難訓練（地震、火災、不審者）3回、スポット避難訓練10回を実施し自分の命は自分で守るを合言葉に取り組んでいる。交通安全教室、通学路の点検、校内安全点検（毎月10日）を実施し、事故防止に努めている。



保護者の肯定的評価73%（2%UP）。管理棟やトイレが新しくなり快適度は上がっている。教室棟が古いままではあり、評価が伸びない理由であろう。教材や体育用具も経年劣化している状況にある。児童への安全を十分に配慮しながら、物を大切にする心の育成も図っていく。

13 地域の施設や人材活用



保護者の肯定的評価71%（4%UP）。地域体験として、市役所、警察署、消防署、手賀排水機場、北総浄水場、クリーンセンター等を見学している。読み聞かせボランティア、図書ボランティア、安全ボランティアなど地域の人材の活用を図っている。

【まとめ】

保護者の肯定的評価は、11の項目において昨年度を3～29%上回っている（残り2項目は昨年度と同値）。特に、教育方針や教育目標については、児童にもなじみやすい「しおあじ」というキーワードで周知徹底を図ってきたため、定着が見られた。今後も各種教育活動について学校だよりやホームページで発信していき、さらにわかりやすく伝えていくよう努める。

学校の対応については、いじめ・長欠傾向児童の対応や保護者からの相談に対しては丁寧に対応しているところである。今年度のアンケートを真摯に受け止め、来年度の経営に活かしていきたい。重点目標としては、

- ①生徒指導の体制の充実…しおあじの励行と教育相談体制の充実
- ②基礎基本の徹底…読書通帳、漢字・計算力の徹底（チャレンジタイム）
- ③筋持久力の向上…ゲー・ベタ・ピン、業間体育（持久走、なわとび）、もりもりタイム
- ④ユニバーサルデザイン…板書・発問・指示の明確化、言語環境、すっきり整頓
- ⑤チーム大森と人材育成…チームで若手を育てる、福祉教育活動
- ⑥新学習指導要領への対応…道徳科・外国語科の研修の充実、ICT機器の活用
- ⑦安全安心・開かれた学校…経営方針の浸透（学校だより、HP、学校公開、PTA活動等）